

IAEA総会

の変遷

日本政府代表演説

国際原子力機関(IAEA)の総会が毎年9月に開かれ、今年も9月18日に日本政府代表が演説をしています。安倍政権発足以降の演説内容を2つのポイントに絞って並べてみます

再稼働

2013年9月16日第57回総会

原子力規制委員会の新規制基準を満たしたもののから**随時再稼働**に向けて、立地自治体等の理解を得るよう取り組んでいきます。

2014年9月22日第58回総会

原子力規制委員会が新しい安全基準に適合すると認めた場合には、**再稼働を進めてまいります**。

2015年9月14日第59回総会

福島第一原発の経験と教訓を踏まえ、強化された新規制基準を満たした原発は、重要なベースロード電源として**再稼働させていく**方針です。

2016年9月26日第60回総会

原子力は、安全性の確保を大前提に、安定供給性、経済効率性、温室効果ガス排出削減等の観点から重要なベースロード電源です。福島第一原発事故の教訓を踏まえ策定された新規制基準を満たした原発は、立地自治体の理解も得ながら、**再稼働を進めていく**方針です。

2017年9月18日第61回総会

今後、引き続き、安全性の確保を大前提に、国民の理解と信用を得られるよう、取り組んでいく方針です。また、日本は、高浜3・4号機を含め5基稼働中であり、引き続き、安全性が確認された原子力発電所の**再稼働を進めていく**方針です。

核燃料サイクル

2013年9月16日第57回総会

プルトニウム利用の透明性を確保しつつ、
使用済燃料の**再処理と燃料としての再利用**を継続していきます。

2014年9月22日第58回総会

利用目的のないプルトニウムは持たないとの政策を堅持し、
需給バランスを考慮に入れつつ、
プルトニウムの適切な管理・利用を行っていきます。

2015年9月14日第59回総会

利用目的のないプルトニウムは持たないとの政策を堅持し、
需給バランスを考慮に入れつつ、
プルトニウムの適切な管理・利用を行っていきます。

2016年9月26日第60回総会

IAEAの厳格な保障措置の下、
「利用目的のないプルトニウムは持たない」との原則を堅持し、
本年8月に再稼働した伊方原発3号機を始め、
プルサーマルの推進によりプルトニウムを着実に利用する考えです。
同原則を堅持すべく、
本年5月に行った再処理事業のガバナンスを強化する新たな法制度整備や
毎年の詳細なプルトニウム管理状況の公表等を通じ、
プルトニウム利用の一層の信頼性・透明性向上に取り組んでいきます。

2017年9月18日第61回総会

IAEA保障措置の厳格な適用の下、
「利用目的のないプルトニウムは保有しない」との原則を堅持しつつ、
プルサーマルの推進等を通じたプルトニウムの着実な利用や
再処理事業のガバナンス強化、プルトニウム管理状況の公表等を通じた
透明性や信頼性向上の取組を継続し、
世界最高の透明性を持つ核燃料サイクルを推進していきます。
高速炉開発については、
我が国の高速炉開発推進の意義は現在においても何ら変わりません。
昨年末に決定した**高速炉開発**の方針を踏まえ、**着実に進めて**いきます。

最後に一言

安倍政権発足(2012年12月)以降、エネルギー基本計画(2014年4月11日閣議決定)の前から
ずっと「原発再稼働を進め、核燃料サイクルは推進する」と世界に発信し続けています。
特に2016年以降、核燃料サイクルについての発言がどんどん具体的になっています。
これは2016年12月21日に原子力関係閣僚会議でもんじゅの廃炉と合わせて「高速炉開発の方針」
が決定され、核燃料サイクルの推進が再確認されたことも影響してそうです。
でも、この辺の議論で国民は完全に蚊帳の外にいる感じがします。これは、政治がこの問題に関心を持
っていない(=国民も関心を持ってない)のが原因で、政治が官僚のシナリオを無批判に受け入れ
ているからだと思います。
この流れを変えるにはどうすればいいのやら。。。。

参考資料
①外務省HP 国際原子力機関 (IAEA) 総会
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/atom/iaea/iaea_sokai.html